

# 方部出張型政策研究会 TopicsNo.1

第1回政策研究会〈令和元年6月13日 県白河合同庁舎〉

令和元年度の方部出張型政策研究会がキックオフしました！

今年度の方部出張型政策研究会の調査研究対象となる県南地方で、県及び市町村（白河市、西郷村、泉崎村、矢吹町、鮫川村）職員計12名が研究員として参加し、活動が始まりました。

令和元年度は、「人口減少・少子高齢化が進み、自治体職員も減少する中にある中、地域に必要とされる行政サービスを提供し、行政経営が可能となる自治体の在り方を考える」をテーマに調査研究を行います。

今回の研究会では、従来のフォアキャスト思考（現状分析から課題を洗い出し、解決策を考える）ではなく、バックキャスト思考（制約を肯定した将来像から取り組むべき課題と対策を考える）の手法を取り入れ、新たな視点からの研究に取り組みます。

将来予測されるトレンドを制約として受け入れつつ、住民の心豊かな暮らしの実現のため、将来のあるべき姿から逆算して、今から取り組むべき分野と課題を設定し、課題解決のための政策を提言することを目標に、今後8か月間にわたり活動していきます。

第1回目となるこの日は、「バックキャスト思考」について知識を深めるため、東京都市大学環境学部教授である古川柳蔵氏をお招きし、基調講演を行っていただいた後、研究員たちは、「バックキャストで考える」体験ワークショップに取り組みました。

最初に安達豪希福島県県南地方振興局長より激励のお言葉をいただきました。

その後、古川教授より、「バックキャスト思考で政策を提案するには」と題して、バックキャストによるライフスタイルデザイン、従来の思考法とバックキャスト思考の違いなどについて御講演をいただきました。

御講演では、厳しい環境制約をうけるであろう未来では、部分最適ではなく、全体最適を考えて、ライフスタイルをデザインしていただくことが心豊かな暮らしを実現していくことになるというお話がありました。全体最適を考えた新しいライフスタイルを生み出すためにはバックキャストという方法を使います。



バックキャストの手順は、「2040年の制約（問題）を考えて、現在のライフスタイルをみる。現在をみたときに、今の暮らしを維持することはできないという問題が見えてくるので、その問題を解決するための未来を描く。そのときに、単純に我慢削減ではなく、制約を受け入れたからこそ生み出される価値を入れた心豊かな未来を描いていく。

次に、その未来を実現するためには、2030年はどうなっていなければならないのか、段階的に描いていく。そして現実に戻った時、その中間のライフスタイルを実現するために必要な政策は何か。また、その先の10年で必要な政策は何かを考えていく。」というものです。

また、東日本大震災のときの停電を例に「電気が使えないという制約を受け入れる」→「電気が使えないからこそきれいな星空が見える」という「バックキャスト思考」についても解説をしていただきました。

さらに、心豊かな暮らしを描くため、古川教授が全国で行っている「90歳ヒアリング」（戦前の失われつつある知恵に学ぶ）の紹介もあり、各地での取組事例についてお話をいただきました。

研究員、聴講者の皆さんの多くは、「バックキャスト」、「バックキャスト思考」について初めて内容を理解したことと思います。

一度聞いて理解するには少し難しい部分もありますが、新たな思考法に触れ、大変勉強になりました。



基調講演後、研究員は各グループにわかれ、バックキャスト思考について理解を深めるため、体験ワークショップに取り組みました。

ワークショップでは、まず、古川先生よりバックキャスト思考について、事例を交えた説明を受けた後、各グループで社会状況についてのディスカッション、将来問題の抽出を行いました。



研究員は、今回初めて挑戦したバックキャスト思考について、難しく感じる場所もあったようですが、各グループとも熱心に取り組んでいました。

今回の課題として、各研究員は、2040年の環境変化（制約条件）の下での「心豊かな暮らし」のデザインに取り組めます。

次回研究会は県南方部での「90歳ヒアリング」を行います。

今後も研究会の活動の様子を紹介してまいりますので、どうぞご期待ください。